

和モダン京町家 ● 趣や風情を活かしつつ最適な生活動線を確保



広くなったリビングダイニングから座敷と庭を見る



トオリニワから火袋*を見上げる



動線が改善された玄関

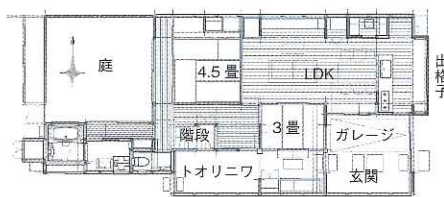


【再生前外観】玄関の左側がガレージ



【再生後外観】京町家の趣きを取り戻した

所在地：京都市中京区
 建物用途：専用住宅
 構造規模：木造 2階建て
 延床面積：191.13㎡
 1階106.87㎡
 2階 84.26㎡
 竣工年：2018年



再生後1階平面図 (2階図面は省略)

現地再生

設計 (株)アラキ工務店 一級建築士事務所
 施工 (株)アラキ工務店

ご両親がお住まいだった町家を、息子さん世帯が引き継ぐことになり、全面改修工事の依頼を受けました。家族構成が変わり、生活スタイルも異なるため、生活動線や間取りの不具合を解消する必要がありました。

広いLDKをご希望でしたので、和室の竿縁天井、回り縁、長押、鴨居などは丁寧の外し、グレードを落とすことなく切り縮めて再利用しました。2階の間取りを変更するのに伴い、構造梁と柱を補強し、町家の弱点となる短辺方向に耐力壁を適宜増設、全体の改修を行いました。

玄関通路の動線確保と、ガレージの位置を動かすため、出格子の幅を狭くしましたが、出格子下部の板石も石職人の技術により、ひび割れすることなく工事を終えました。

建て主からは、「1階はリビングを中心とした憩いの場、2階は寝室等のパーソナルスペースと、最適な生活動線を確保できました。京町家の趣や風情を最大限に活かし、暮らしぶりをよりいっそう豊かにすることができました。祖父が築いてから80余年、これからも末永く大切に住みたいと思います」との言葉をいただきました。

(荒木 勇)

*火袋 (ひぶくろ)：京町家にある吹抜け。土間全体を「トオリニワ」と呼び、そのうち一番奥にある炊事場を「ハシリ」と呼ぶ。「火袋」は、この「ハシリ」上部の空間を指す。